

# NEWS LETTER

教育開発支援

November 2021  
No. 43

令和3年度 GPS-Academicの分析結果について.....	01～06
	教育開発支援委員会・教務課IR担当
令和2年度 卒業生アンケートの結果について.....	07～08
	教育開発支援委員会・教務課IR担当

## 令和3年度

# GPS - Academic の分析結果について

教育開発支援委員会・教務課IR担当

### 1. 今年度の受検状況

GPS-Academicは、かつて実施していた「大学生基礎力レポートⅠ・Ⅱ」から切り替えて今年で3回目の実施となるが、受検状況については、2年次および3年次の受検率が昨年度を大きく上回った。1年次については、昨年度に比べてやや低下したが、一昨年度とほぼ同様の受検率である。2年次・3年次の学生については、キャリア形成支援課の協力により、ガイダンスでのアナウンスや個別相談時にGPS-Academicの結果シートを活用するなどの取組を新たに実施したことで、大幅に受検率が向上したと思われる。4年次以上についても、昨年度から受検者は倍増しているものの、まだ受検率向上の余地があると思われ、来年度に向けての対応が求められる。

### 2. 分析のポイント

GPS-Academicの概要については、本誌第39号に掲載しているため、そちらを参照いただくこととし（専修大学HPトップ/学生生活/授業・履修情報/教育開発支援NEWSLETTER）、教育開発支援委員会および教務課IR担当者では、今年度における分析ポイントを以下の2点に絞ることとした。

- (1) 卒業認定・学位授与の方針の検証
- (2) 学修時間・学修行動に係る分析

「(1) 卒業認定・学位授与の方針の検証」は、前年度以前から取り組んでいるものであり、継続して分析・検証することが重要であるため、本年度に関しても同様の分析を行った。次に、

表 1 GPS-Academicの受検状況

学生年次	平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	大学生基礎力レポートⅠ・Ⅱ		GPS-Academic					
	受検者数	受検率	受検者数	受検率	受検者数	受検率	受検者数	受検率
1年次	3953	99.0%	2951	76.5%	3487	80.0%	3044	72.9%
2年次	3593	85.4%	1358	33.9%	290	7.5%	1945	46.5%
3年次	2871	65.3%	1160	28.3%	138	3.5%	988	26.0%
4年次以上	—	—	548	11.4%	64	1.3%	145	3.3%

「(2) 学修時間・学修行動に係る分析」では、コロナ禍におけるオンライン授業の実施が、学生の学修時間および学修行動にどのような影響を与えているか考察する。

**(1) 卒業認定・学位授与の方針の検証**

本学では、学士課程全体の卒業認定・学位授与の方針（以下、「DP」という）において、次の4つの項目を身につけなければならない資質・能力として掲げ、各学部・学科では、これを踏まえてそれぞれのDPを策定している。

- [DP 1] 社会知性の核となる、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法を身につけ、活用することができる。（知識・理解）
- [DP 2] 社会知性の意義を理解し、人間理解、倫理観、地球的視野を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組み、その能力を生涯にわたって開発し続けることができる。（関心・意欲・態度）

[DP 3] 論理的思考力、コミュニケーション能力、情報リテラシーを身につけ、それを活用して情報の収集・分析・発信を行うことができる。（技能・表現、思考・判断）

[DP 4] 大学における学修で身につけた知識・技能を活用し、創造的かつ主体的に社会の諸課題に取り組むことができる。（思考・判断）

以下ではまず、これらのDPの学生認知度について確認し、次いで成長実感の自己評価項目の集計結果を示す。

**(i) DPの認知度**

DPは、大学のホームページに掲載するとともに、2018年度からは各学部・学科のDPを学修ガイドブックにも掲載している。

DPの認知度については、大学独自設問として例年以下の質問項目を設定している。学部によって多少の違いはあるものの、「内容を知っている」、「説明を聞いたことがある」を回答した学生がほとんどの学部・学年で50%以上であり、昨年度

大学が定めている「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」および「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を知っていますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。【大学独自設問】

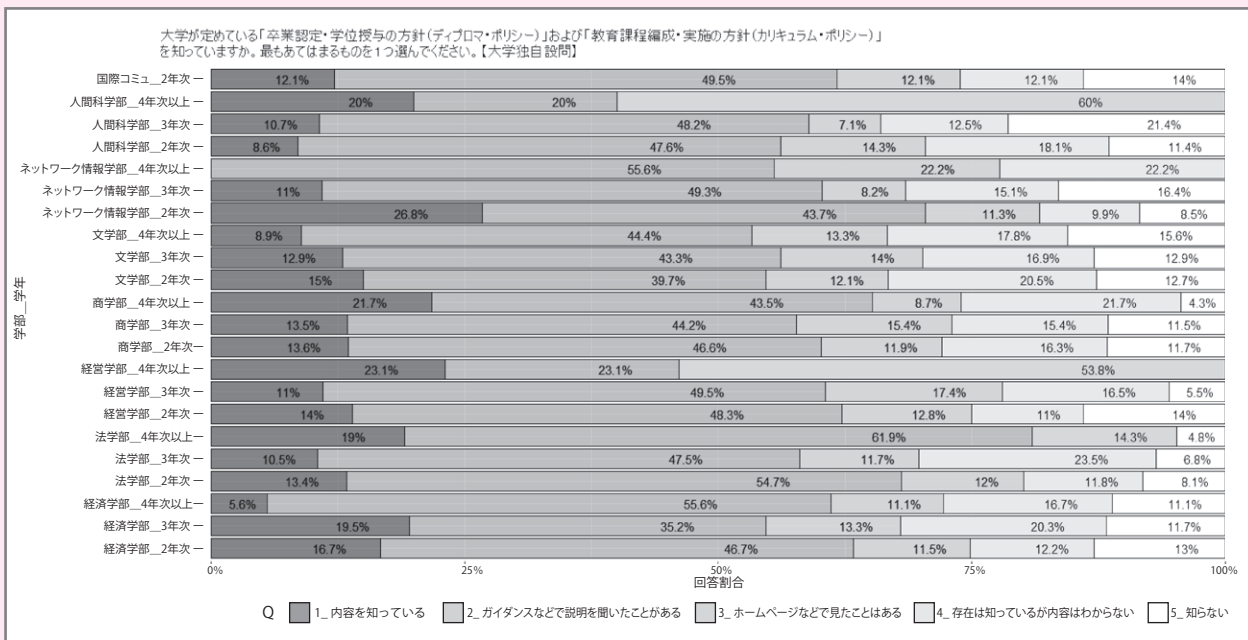


図1 DPの学生認知度

令和3年度 GPS-Academicの分析結果について

までと同様の傾向である。DPを策定して数年が経過し、年々、学生の間での認知度も向上していたが、上げどまりの兆候が見られる。

(ii) 学修成果の自己評定

次に学修成果に関する自己評定に関して、大学独自設問として専門的な知識・技能に関する自己評定、GPS-Academicの共通項目として成長実感の二つの項目を取り上げる。

大学におけるこれまでの学修を通して、所属する学部・学科の専門的な知識や技能、思考方法について、あなた自身どの程度身についたと感じていますか。最もあてはまるものを1つ選んでください。【大学独自設問】

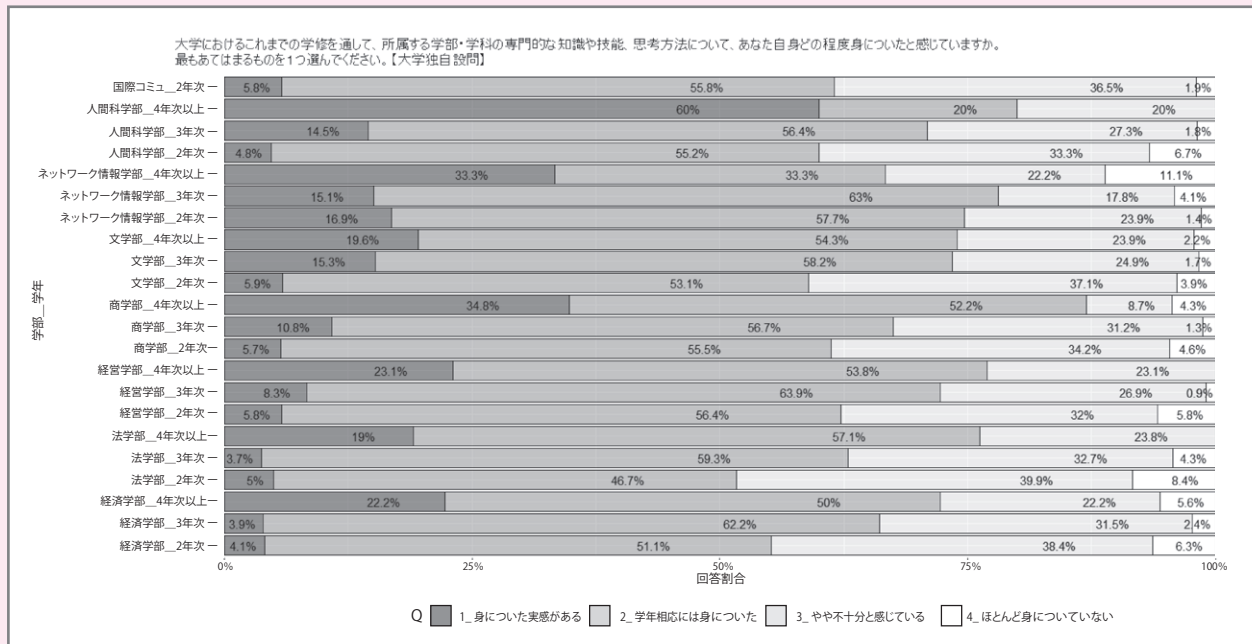


図2 専門的知識・技能、思考方法についての成長実感

成長実感

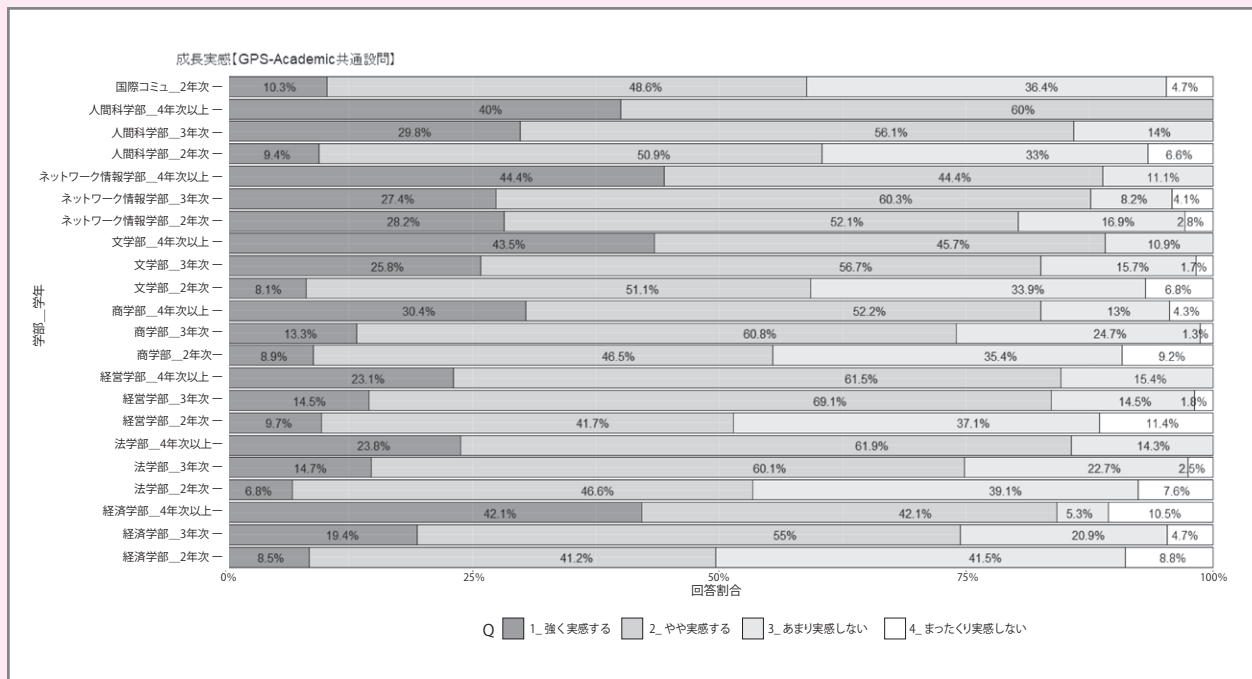


図3 成長実感【GPS-Academic共通設問】

まず、専門的な知識・技能に関する設問の回答状況から、ほとんどの学部・学年で肯定回答の割合が50%を超えている。半数以上の学生が、本人の感覚としては、所属する学部・学科の専門的な知識や技能、思考方法が、ある程度身につけているという実感を持っているようである。

また、GPS-Academicの共通項目である成長実感の項目では、専門的な知識・技能の回答状況と比べて肯定回答の割合が特に上級年次でやや多い傾向があった。選択肢の違いはあるが、専門的な面に限定しなければ、上級年次の学生ほど成長を実感しているといえるのではないだろうか。

## (2) 学修時間・学修行動に係る分析

まず初めに、本年度の自習時間に関する回答結果の集計を図4に示す。これを見ると、1年次の回答結果つまり、入学前の学修時間が最も多く、入学後は学修時間が減少していることがわかる。また、この傾向は本学だけでなく、全国調査データについても同様の傾向を示している。

次に、図5に、同様の回答結果を用いて、2年次を対象として3カ年比較する。これを見ると、2021年度および2020年度では、2019年度よりも学修時間が増加していることがわかる。この学修時間増加の要因として、コロナ禍におけるオンライ

ン授業の実施に伴い、授業で指示される課題の量が増えたことが考えられる。実際、2020年度および2021年度に実施した「オンライン授業に関する学生アンケート」の回答結果からも、「課題の量が多い」という学生からの声は少なくない。

そこで、授業の予復習に関する回答結果を集計し、図6に示す。これの結果をみても、オンライン授業が実施されて以降、予復習を「ほとんどしなかった」「全くしなかった」の回答割合が大きく減少している。おそらく、授業での課題提示が以前に比べて増加した結果、学生の学修時間が増加していると思われる。よって、適切な事前学修および事後学修についての指示を授業で行うことは今後も重要であろう。反対に、この状況下においても「ほとんどしなかった」「全くしなかった」と回答している学生も約1割程度いるが、これらの層の学修行動と学修成果の関係についても今後検討が必要であろう。

最後に、本年度でGPS-Academicの実施3年目を迎えたため、パネルデータの利用が可能となった。ここでは、1年次および3年次の両方でGPS-Academicを受検した889名の結果から、学修時間に関する設問の回答結果をクロス集計した。図7がその結果であるが、入学前の学修時間と入学後の学修時間には正の相関が確認できる。つまり、

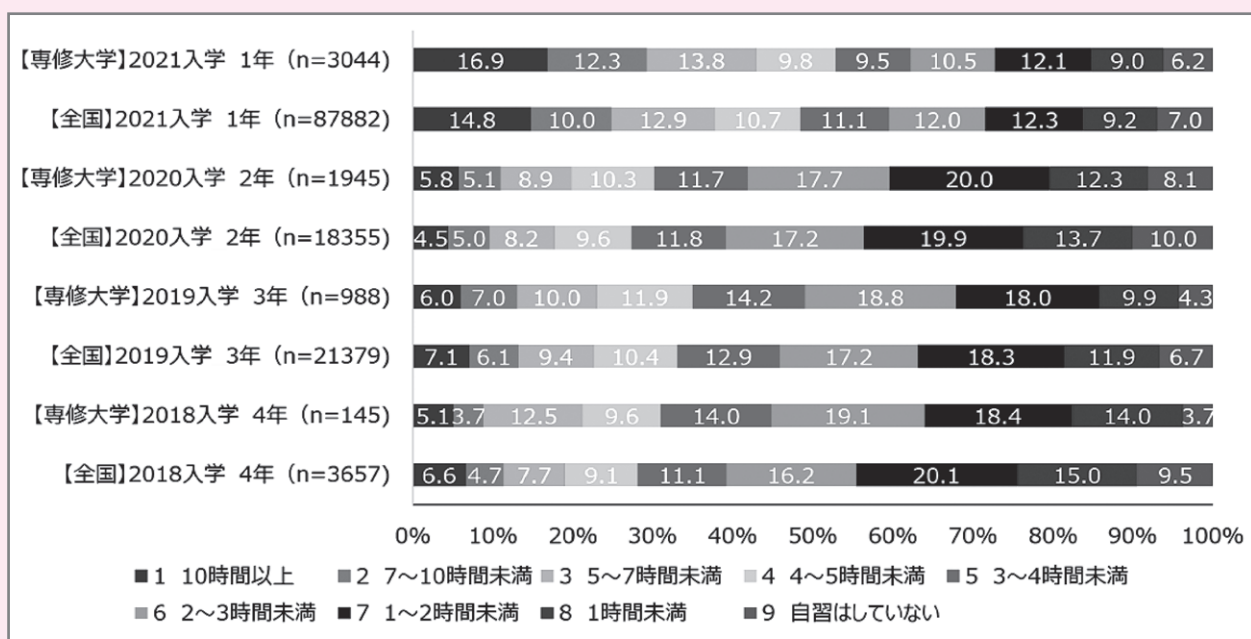


図4 2021年度の学修時間回答

令和3年度 GPS-Academicの分析結果について

入学前の学修習慣は入学後の学修行動に関連があるということが出来る。加えて、1年次・3年次の両方で「1時間未満」「自習はしていない」と回答した学生の入学試験区分を確認したところ、約9割が学校推薦型入学試験による入学者であった。

したがって、一般選抜型の入学試験と比較して早期に進路が決定する学校推薦型入学試験では、リメディアル教育を充実させるなどして、入学前の期間に学修習慣を持続させる施策の必要性が示唆される。

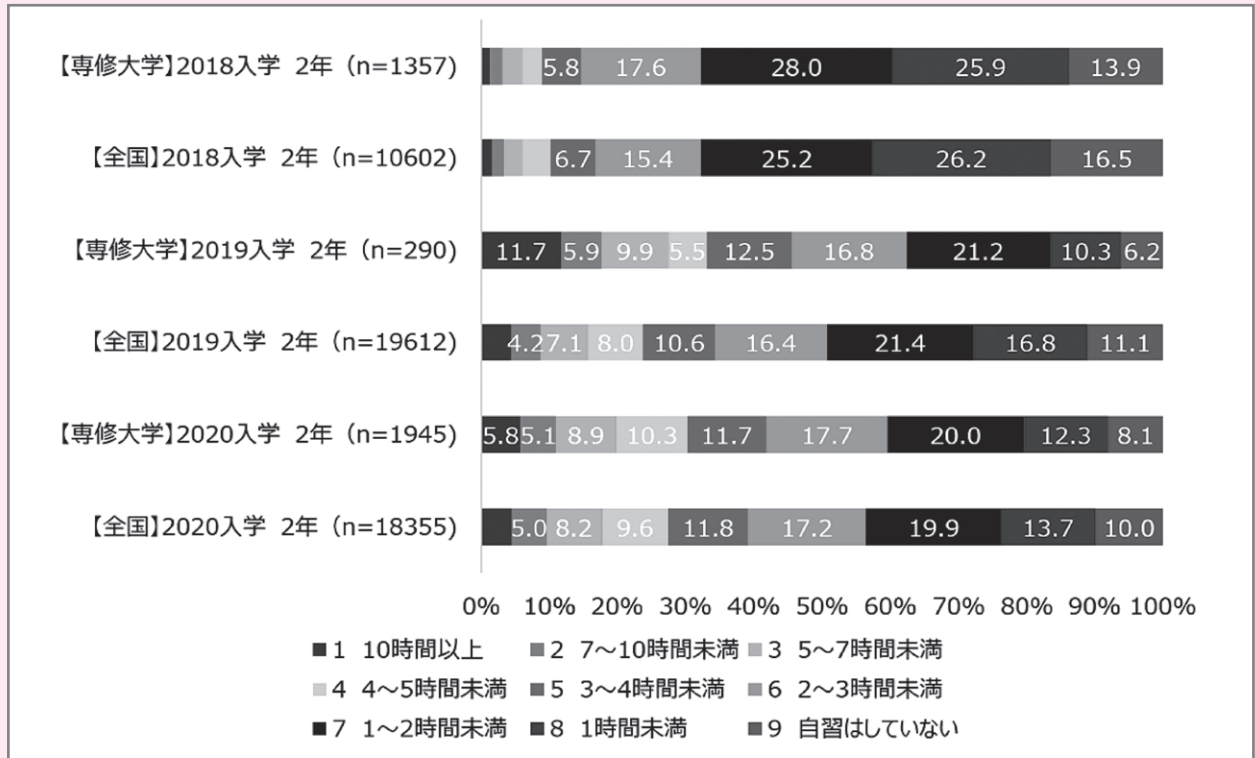


図5 3カ年の学修時間の推移（2年次対象）

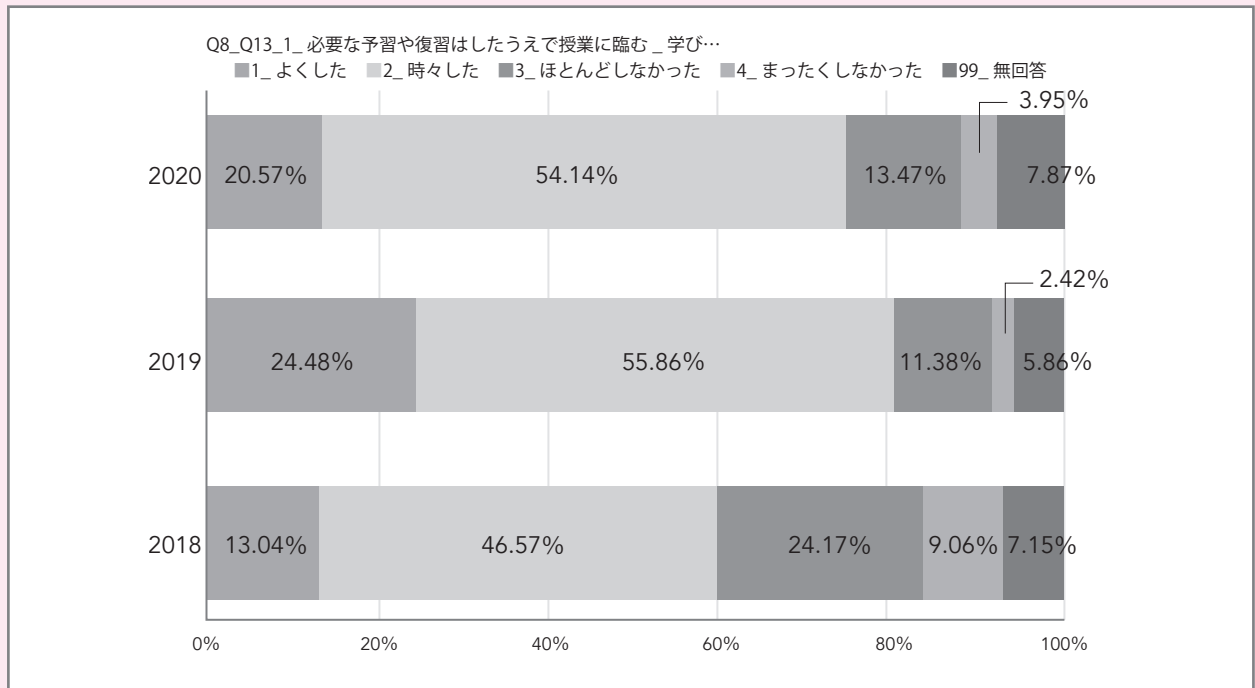


図6 授業の予復習に関する回答結果



	1 10 時間以上	2 7~10 時間未満	3 5~7 時間未満	4 4~5 時間未満	5 4~5 時間未満	6 2~3 時間未満	7 1~2 時間未満	8 1 時間未満	9 自習はしていない
1 10 時間以上	12.3%	13.9%	15.6%	10.7%	13.1%	15.6%	12.3%	4.9%	1.6%
2 7~10 時間未満	10.5%	3.5%	9.3%	12.8%	14.0%	20.9%	17.4%	8.1%	3.5%
3 5~7 時間未満	3.9%	10.2%	10.9%	18.0%	12.5%	18.8%	17.2%	4.7%	3.9%
4 4~5 時間未満	8.8%	3.8%	16.3%	6.3%	23.8%	18.8%	8.8%	10.0%	3.8%
5 4~5 時間未満	2.1%	7.3%	8.3%	9.4%	12.5%	22.9%	25.0%	10.4%	2.1%
6 2~3 時間未満	2.4%	1.2%	4.7%	16.5%	20.0%	22.4%	21.2%	9.4%	2.4%
7 1~2 時間未満	0.0%	6.9%	8.3%	18.1%	9.7%	16.7%	27.8%	9.7%	2.8%
8 1 時間未満	2.9%	2.9%	10.3%	7.4%	8.8%	17.6%	22.1%	20.6%	7.4%
9 自習はしていない	6.7%	3.3%	6.7%	3.3%	10.0%	0.0%	16.7%	16.7%	36.7%

図 7 自習時間のパネルデータ（1年次と3年次の回答クロス集計）

### 3. まとめと考察

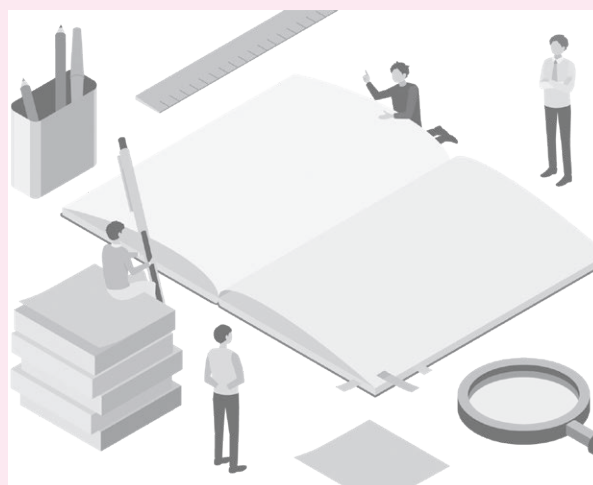
前項までのように、今年度初めて実施したGPS-Academicの結果について各種分析を行ったが、最後に所見と共にまとめと考察を行う。

#### （1）GPS-Academicの受検率について

昨年度はコロナ禍の影響やCBTでの実施に伴う受検率の低下から、アセスメントテストの受検率は低調であったが、今年度はキャリア形成支援課からのアナウンス等の効果から2・3年次の受検率が向上した。GPS-Academicは学生個人へのフィードバックも重要な手順として位置づけており、キャリア形成支援課での面談時に利用するという新たな試みが上手く機能したと思われる。今後も、このアセスメントテストを継続して実施していく上では、学生個人が受検するメリットを感じるような対策が必要であると考えられる。

#### （2）学修時間・学修行動に係る分析について

学修時間の増加傾向が確認され、授業での課題指示がその要因であることが示された。これまでもシラバス等で事前学修・事後学修についての指示を記載するように求めてきたが、「適切」な課題の提示方法等についての研究が必要である。



# 令和2年度

## 卒業生アンケートの結果について

教育開発支援委員会・教務課IR担当

### I 実施状況

卒業生アンケートは令和2年度で6回目の実施となる。アンケートは、すべての学部・学科の卒業生を対象に、卒業式・学位記授与式の会場で行っているが、本年度はコロナ禍の影響から学位記交付の際に取得した。6カ年の実施状況は次のようになっている。

年 度	卒業生数	有効回答数	有効回答率
平成27年度	4,128	3,575	86.8%
平成28年度	4,197	3,577	85.2%
平成29年度	4,152	3,249	78.3%
平成30年度	4,107	3,446	83.9%
令和元年度	4,235	3,730	88.1%
令和2年度	4,206	3,252	77.3%

### II アンケート結果の概要

#### (1) 満足度について

本稿では卒業生アンケートで設定している設問項目の内、学生の満足度に関する設問項目に注目してその傾向を探ってみることとした。関連する

設問は以下の8つである。それぞれについて(1)満足している、(2)ある程度満足している、(3)あまり満足していない、(4)満足していない、の4つから1つを選択して答えてもらった。

設問番号	設 問
問 1	授業(教養科目)について
問 2	授業(外国語科目)について
問 3	授業(専門科目)について
問 4	授業(ゼミナールまたはプロジェクト)について
問 5	国際交流・留学支援について(～2016年度) 各種課外講座等(資格取得支援、各種試験対策等)について(2017年度～)
問 6	課外活動全般(クラブ・サークル等)について
問 7	就職支援について
問 8	学生生活全般を振り返り、専修大学に在籍したことに満足していますか。

※ただし「国際交流・留学支援」については尋ねる項目は、2017年度卒業生からは「各種課外講座等」の満足度を問う設問へと変更されている。

回答内容を肯定的なもの、否定的なもの、参加・利用していない、の3つに整理して4年間の変化をグラフにすると次のようになる。

